

認知症でもだいじょうぶ

～ゆるやかに受けとめて、最期まで支えるまちづくり～

日時:2014年3月1日(土)開場9:00 開会9:30～15:30

会場:那須塩原市・三島ホール(東三島 6-337 電話 0287-36-8531)

入場無料 参加申し込み、お問い合わせは以下の事務局へ

主催:ゆいの里「市民公開講座」実行委員会

電話:0287-38-1868

FAX:0287-38-1869

メール:npo-yui@yuinosato.gr.jp

開 場 9:00

開 会 9:30 開会のことは 来賓挨拶

午前の部

第1部 9:50～10:50 【基調講演】 上野秀樹氏(精神科医師) 海上寮療養所

「認知症になっても最期まで地域で暮らすために」

座長:黒崎史果氏(那須塩原クリニック 医師)

休 憩 10:50～11:00 (湯茶サービス)

第2部 11:00～12:00 【講演・対談】 中村成信氏「ピック病と共に生きて」

佐藤雅彦氏「若年性アルツハイマーと生きる」

座長:児玉幸弘氏(こだま社会福祉士事務所)

昼休み 12:00～13:00 ゆいの里感謝祭

けんちゃん汁ふるまい、湯茶サービス おにぎり・パンの販売
ホワイエにて — 那須野シスターズ ピアノ&歌の贈り物 —

午後の部

第3部 13:00～14:00 「地域で生きるⅠ ～生きて、生きて、逝く～」

家族介護者の物語り

- ・がんと認知症の母と共に 齊藤ヒロ子氏(矢板市)
- ・非がんと認知症の母と共に 堀内 陽子氏(那須塩原市)
- ・認知症を生きる母と共に 木下美智子氏(大田原市)

コーディネーター:飯島恵子(ゆいの里)

休 憩 14:00～14:20 (湯茶サービス)

第4部 14:20～15:20 「地域で生きるⅡ ～ケアされる人から支え合う人へ～

“街中サロンなじみ庵” 9年間の軌跡(奇跡)

～行きたい場所がある 会いたい人がいる～

なじみ庵の仲間たち 全員集合

閉会 15:20～15:30 閉会の言葉

どなたでもご参加いただけます。☆託児・託老あります。
(要・事前申込み)

*** ゆいの里「市民公開講座」実行委員会 ****

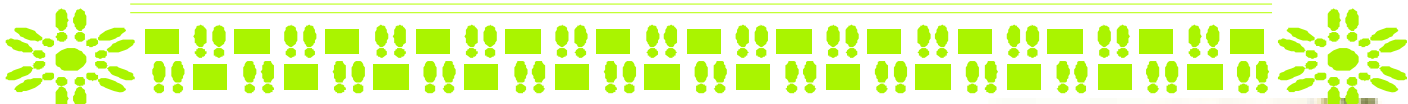
おかげさまで「ゆいの里」は18周年を迎えることができました。

これまでお世話になりました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

NPO法人ゆいの里連絡先 〒329-2724 栃木県那須塩原市西幸町 2-16

Tel:0287-38-1868 Fax:0287-38-1869

地域で
生きる



■基調講演 上野秀樹（うえの ひでき）さん

□所属等 社会福祉法人ロザリオの聖母会 海上療養所（千葉県旭市）
桜新町アーバンクリニック（東京都世田谷区）
内閣府・障害者政策委員会委員
千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部 特任准教授



□略 歴 昭和38年東京都生まれ。
平成4年東京大学医学部卒業、東大附属病院精神神経科にて初期研修。
平成16年より19年まで東京都立松沢病院にて認知症精神専門病棟を担当。
平成20年より社会福祉法人ロザリオの聖母会 海上療養所勤務。
平成24年より桜新町アーバンクリニック勤務。内閣府・障害者政策委員会委員。
平成26年より千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部 特任准教授

■講演・対談



中村成信（なかむら しげのぶ）さん
昭和25年東京都生まれ。茅ヶ崎市職員時代1999年には茅ヶ崎海水浴場を「サザンビーチがさき」と命名、翌2000年の「サザンオールスターズ茅ヶ崎ライブ」の実現に奔走する。2006年2月、56歳の時、

スーパーで万引きをしたとして現行犯逮捕され、約2週間後には懲戒免職となる。その後、認知症の一つである前頭側頭型認知症（ピック病）と診断される。3年2か月に及び公平委員会のやりとりを経て、懲戒免職処分は撤回された。2009年末、自主退職。現在は、通院治療のかたわら、デイサービスでボランティアをしたり、趣味のカメラ撮影では受賞したり、全国各地で認知症当事者としての講演活動を行っている。

2011年11月感動の手記『ぼくが前を向いて歩く理由 事件、ピック病を超えて、いまを生きる』中央法規出版より発売



佐藤雅彦（さとう まさひこ）さん
昭和29年岐阜県生まれ。大学の理工学部数学科を卒業後、教員を経て、コンピューター会社にシステムエンジニアとして入社。1986年にマンションを購入し、管理組合の理事長を引き受ける。

39歳の時、クリスチャンになる。コンピュータ販売会社勤務中の51歳の時、アルツハイマー型認知症と診断される。現在、民間援助団体ワールド・ビジョン・ジャパンなどでのボランティアや認知症の理解を訴える講演活動をしながら、ひとり暮らしを続けている。「認知症となると不便なことは増えるが、不幸とは思わない。グループホームに入所を勧められたが、それから7年、ヘルパーの支援を受けながら自由に暮らしている。認知症でも残っている機能を活かして社会に貢献したいと考えている人も多い」と考えている。認知症当事者（本人）だけの任意団体「3つの会」代表



2003年、2008年と「認知症でもだいじょうぶ」をテーマに、ゆいの里市民公開講座を行ってきました。認知症という言葉は、今や誰もが知るようになりましたが、認知症の理解と支援は深まったでしょうか。2013年、厚労省の研究班は認知症高齢者は65歳以上の15%推定462万人、予備軍を含めると800万人に上ると発表しました。国は昨年度から新たな認知症施策の5か年計画「オレンジプラン」をスタートし、認知症の人を施設ではなく住み慣れた自宅などで介護する在宅型へと動き出しています。

このまちで、年を重ねて、病気や障害をもっても、認知症になっても、安心して暮らしていくために、みんなで「認知症」について、一緒に考えてみませんか？安心して老後を暮らせるまちは、子どもたちも若者も誰もが安心して暮らせる、みんなに住みよいまち！明日はわが身。人は誰も老いていきます。

参加ご希望の方は下記宛、電話またはFAXにてお申し込みください。当日参加も若干名可能です
申込み・連絡先電話：0287-38-1868 FAX送信先：0287-38-1869 ゆいの里

お名前	連絡先 住所	電話	備考

お申し込み時の個人情報は適切に管理し、目的以外の用途には利用しません。